

湾

鏡のような
みどりの湾
ゆっくりと吹き出る噴煙の
灰降らせつつ、たなびく

積み上がるガラクタ
言葉、言葉、また言葉

真昼であるのに
夜明けのような
夕暮れのような
オレンジに染まる遠い峰

無意味なる力
世界の向こうもまた世界であるのに

黙々と暮らす
節くれ立った掌が触れるもの
紡ぐもの
温さ

ああ、私は唾を吐いていた
下劣極まりない言葉で

うち並ぶ黒い甕
その果てしない眩き
営みそのものであり
生であるもの

私は何を見ていたのか

鼻高々に

墓前に瑞々しく活けられた花

ただひとつの事実

暮らし

生であるもの

私は灰をかぶる

それ以外にはない

溶かされることなく

灰は静かに沈んでゆく

濁ることもなく

透明な水底へ

(2010.1.24)